

『原石』 作：ポチ子

変わっているのが才能の証拠だと、

誰かの目を引く個性が重要だと、

そう教わった。

だから、私の前にいたあの人は、

unnecessary アドリブを入れたし、

さっきの人は、

面白くもないモノマネをした。

自分はまだ見つかっていない原石なのだと、

相手に思ってもらうために。

その次は綺麗な服を着た、美人な子だった。

その子は自信がないと言って、

つまらない自己紹介をした。

最後に選ばれたのはその子だった。

そんなものなのだ。

好みの顔だったからとか、

適当な、簡単な理由で物事は決まる。

奇想天外なことをして評価されたのなら、

たまたま相手の機嫌が良かっただけだ。

なのに選んだ側も、選ばれた側も、

自分の選択は、

自分が選ばれたのは、

深い理由があるのだと言いたがる。

才能や実力とは関係ない、

偶然や、

その日の機嫌で左右されるような、

そんなものを素晴らしいと言い、

それに皆頷き、

無意味な努力を続けるのだ。